

歌壇

大下一真選

特選

長旅への支度のひとつと糠床を友にあづける小蕪をそへて

本駒込 唐木 よし子

米寿にと兄は取り組む「自分史」に私の疎開のあれこれを訊く

向丘 高野 伸子

捻巻の夫愛用の腕時計巻く人もなく時を止めたり

水道 高木 マリ

入選

本郷の菊坂行けば薄幸の才女を偲ぶ古き井戸あり

千石 小出 風沙子

北信濃何時雪降るや妹とたき木背負いし遠き日偲ぶ

西片 松林 利枝

サラダ山登るトマトの桃太郎レタスにセロリキュウリ引き連れ

千石 菊地 正矩

丸火鉢撫でつつ君の帰り待つ遠き日おもう師走となりて

千駄木 石井 禮子

失せものを悔やむひまなし引越しの家具をすっかり磨くとするか

本郷 塚 公美

我が庭に根付きて三年百合の花友の便りも今満開と

千駄木 上杉 紀世子

朝つゆに濡れて煌めく葉の下を露にまみれて老犬歩む

水道 菅井 茂子

俳壇

松澤 雅世 選

特選

先頭はモーゼの裔か鳥渡る

千石 大石 坦

山の月隧道抜けて月の海

千石 竹居 陽一

刈り上げし頭一撫で秋の風

千石 菊地 正矩

入選

セミ時雨ひそかに町を離れけり

小石川 大塚 茂

ひとり居の音読たかき夜長かな

向丘 片岡 マサ

引越しを終えて団欒良夜かな

本郷 堺 公美

秋桜花妖精ともにさゆれだす

西片 中島 多津子

荷風生誕の地ざくろ笑ふ

春日 二村 吉光

名山を脇役に置き今日の月

向丘 丸岡 正兎

露草の水の香り仄かなり

千駄木 山田 鈴女